

学習指導資料

「学習評価の事例集」（宮城県版）

高等学校

第2編（各教科）

総合的な探究の時間

令和4年8月

宮城県教育委員会

仙台市教育委員会

石巻市教育委員会

1 総合的な探究の時間を実施するにあたって考えるべきこと

総合的な探究の時間が必要・重要とされる理由として、以下の3つが挙げられる。


【総合的な探究の時間の必要性・重要性の3要素】

1. 実社会や実生活において生きて働く資質や能力及び態度の育成が求められるから
2. 現代社会の課題（国際理解、情報など）を学ぶことが期待されるから
3. 周囲との関係の中で将来どのように生きるのかを考えることが求められるから

第1に、総合的な探究の時間では、実社会や実生活において生きて働く資質や能力及び態度の育成が期待されることである。実際の生活にある問題を取り上げることで、生徒は課題を解決しようと真剣に取り組み、自らの能力を存分に発揮する。こうした一連の問題解決の中で育成される能力は、課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力など、実社会において求められる能力である。例えば、経済産業省では、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成された「社会人基礎力」を2006年に定義した（下図）。「人生100年時代」や「第四次産業革命」の下で、「社会人基礎力」はむしろその重要性を増し、「人生100年時代」ならではの切り口・視点からバージョンアップされたものが「人生100年時代の社会人基礎力」（2ページ）として、新たに定義された。社会人基礎力の「3つの能力／12の能力要素」を内容としつつ、能力を発揮するにあたって、自己を認識してリフレクション（振り返り）しながら、目的、学び、統合のバランスを図ることが、自らキャリアを切り拓いていく上で必要であると位置付けられた。そして、こうした力を育成するためにも、総合的な探究の時間では、実社会で生きる能力のうちどれを育成するのかをはっきりと意識しながら、「育てようとする資質や能力及び態度」を明確にすることが求められる。

『前に踏み出す力（Action）』

～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～

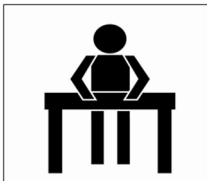


- 主体性**
物事に進んで取り組む力
- 働きかけ力**
他人に働きかけ巻き込む力
- 実行力**
目的を設定し確実に行動する力

指示待ちにならず、一人称で物事を捉え、自ら行動できるようになることが求められている。

『考え抜く力（Thinking）』

～疑問を持ち、考え抜く力～

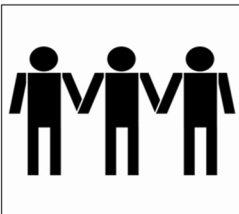


- 課題発見力**
現状を分析し目的や課題を明らかにする力
- 計画力**
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
- 創造力**
新しい価値を生み出す力

論理的に答えを出すこと以上に、自ら課題提起し、解決のためのシナリオを描く、自律的な思考力が求められている。

『チームで働く力（Teamwork）』

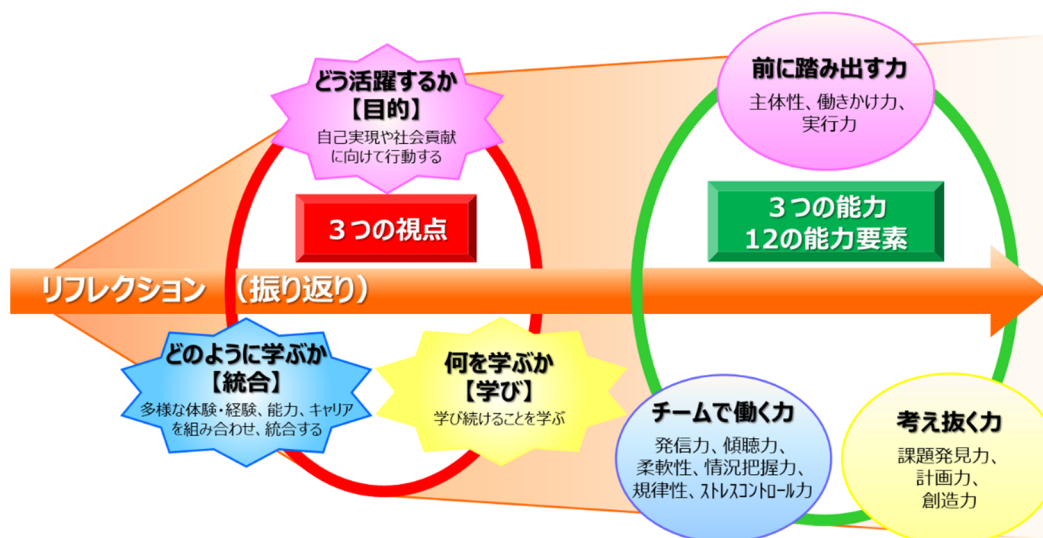
～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～



- 発信力**
自分の意見をわかりやすく伝える力
- 傾聴力**
相手の意見を丁寧に聴く力
- 柔軟性**
意見の違いや相手の立場を理解する力
- 状況把握力**
自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
- 規律性**
社会のルールや人との約束を守る力
- ストレスコントロール力**
ストレスの発生源に対応する力

グループ内の協調性だけに留まらず、多様な人々との繋がりや協働を生み出す力が求められている。

【社会人基礎力】経済産業省「人生100年時代の社会人基礎力」説明資料より



【人生100年時代の社会人基礎力】経済産業省「人生100年時代の社会人基礎力」説明資料より

第2に、総合的な探究の時間では、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代社会の課題の発見及び解決方法を学ぶことが期待される。これらの現代社会の課題は、近年の社会の変化に伴って新たに生じたり、深刻さを増したり、切実に意識されるようになったりした課題であり、これからの社会を担う生徒にとっては避けて通ることのできない課題である。そのいずれもが、持続可能な社会の実現に関わる課題であり、現代社会に生きるすべての人が、これらの課題を自分事として受け止め、日々の生活の中で自己の在り方生き方とのかかわりで考え続け、よりよい解決を目指して行動することが望まれる。こうした正解が一つに定まらない現代社会の課題などに、真剣に解決に向けて取り組むことこそが、これからの時代を生きる生徒に求められている。だからこそ、「学習内容」をしっかりと定めなければならない。

第3に、総合的な探究の時間では、周囲の環境等との関係の中で、将来に向けていかに生きていくかを考えることが期待される。総合的な探究の時間では、それぞれの生徒が具体的で関係的な認識を、自ら構築していくことを期待している。生徒が自ら設定した学習課題や学習対象などを、自分と切り離して見たり扱ったりするのではなく、自分や自分の生活とのかかわりの中で捉え考えることになる。また、人や社会、自然を、別々の存在として認識するのではなく、それぞれがつながり合い関係し合うものとして捉え、認識することになる。

こうして、総合的な探究の時間では、目標に示す「自己の在り方生き方を考えることができる」生徒の姿が具現されていくのであり、そのためにも、日常生活や社会と自己とのかかわりを重視することが大切である。そうすることで、課題を自分事として認識することができ、生徒の関心も高まりやすくなるとともに、体験学習なども行いやすく、身体全体を使って、本気になって取り組むことにつながる。生徒にとっての学ぶ意義や目的を明確にすることが可能で、そのことが生徒の意欲的な学習の姿を生み出すことにもつながる。各学校において、総合的な探究の時間の必要性や重要性を再確認した上で実施していくことが、より効果を高めることにつながる。

2 総合的な探究の時間実施のサイクル

総合的な探究の時間において、生徒の課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力等を高めるためには、各学校で総合的な探究の時間のカリキュラムを適切に編成し、マネジメントする必要がある。その際、以下のようなサイクルで行われる。

- ① 地域や学校、生徒の実態等の現状を把握する。
- ② 求める生徒の姿等を目標として設定する。
- ③ 目標と現状のギャップを分析し、目標の達成を促す要因や阻害する要因を考察する。
- ④ 目標の達成度を測る具体性のある評価指標を決める。
- ⑤ 適切なカリキュラムを編成し、それを支える体制を整備する。
- ⑥ 指導計画に沿って実践する。
- ⑦ 成果・効果の評価・省察してカリキュラムを改善する。

ここでは、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説や、「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」に基づき、総合的な探究の時間の学習評価をするにあたっての基盤となる全体計画を作成していく流れを最初に確認していく。

3 全体計画の作成

（1）全体計画とは

全体計画とは、指導計画のうち、学校として、この時間の教育活動の基本的な在り方を、概括的・構造的に示すものである。

各学校において全体計画を作成することの意味は、学習指導要領に示される「総合的な探究の時間」の目標を、各学校の日々の実践として具体化するところにある。全体計画は、簡潔な表現で、見やすく、日々の実践において活用しやすいものを作成することが望まれる。

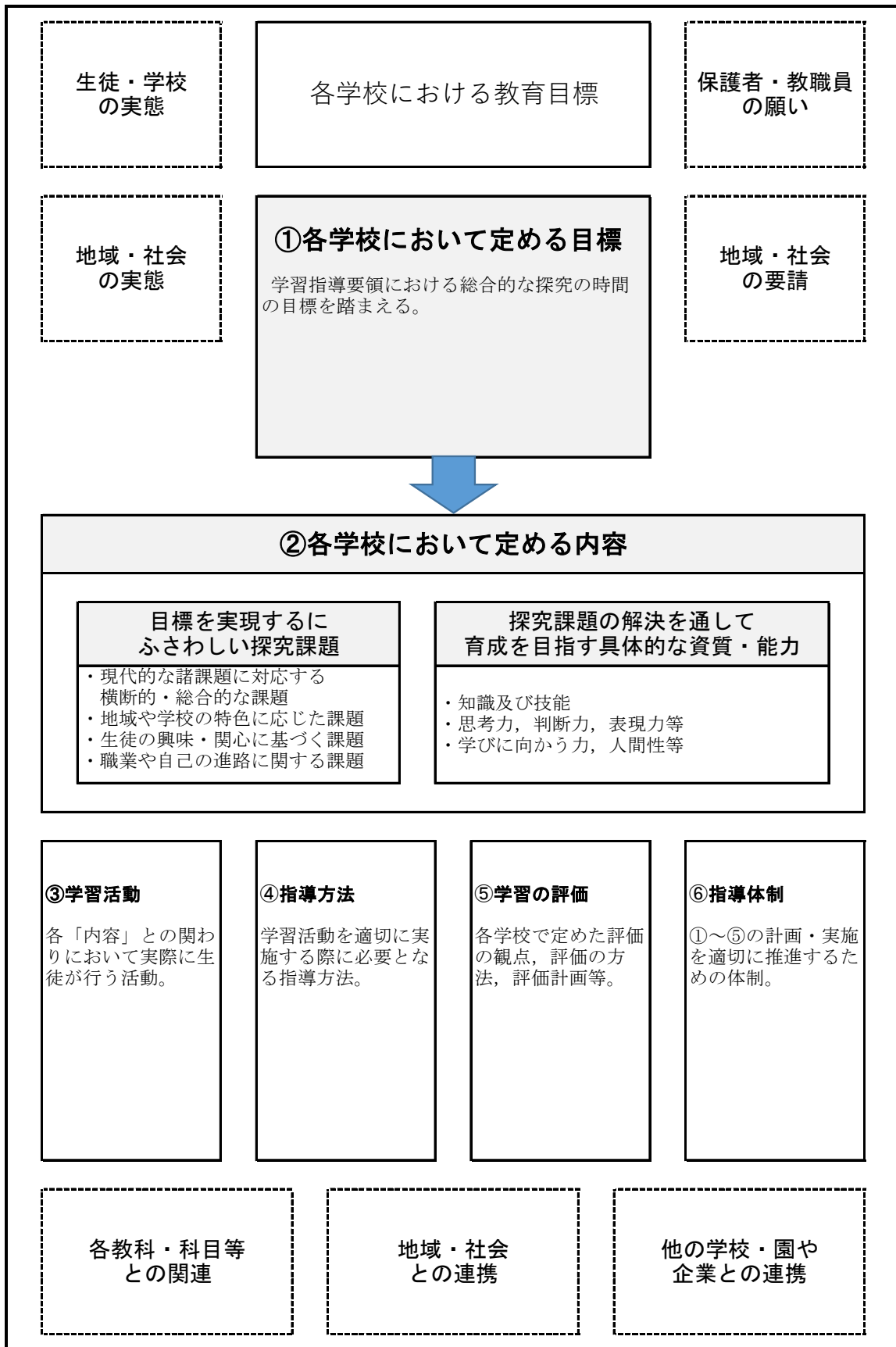
全体計画の作成に当たり、各学校は以下の6つの要素について考える必要がある。

- ① この時間を通してその実現を目指す「目標」
- ② 「目標を実現するにふさわしい探究課題」及び「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」からなる「内容」
- ③ 「内容」とのかかわりにおいて実際に生徒が行う「学習活動」
これは、実際の指導計画においては、生徒にとって意味のある問題の解決や探究活動のまとまりとしての「単元」、さらにそれらを配列し、組織した「年間指導計画」として示される。
- ④ 「学習活動」を適切に実施する際に必要とされる「指導方法」
- ⑤ 「学習の評価」
これには、生徒の学習状況の評価、教師の学習指導の評価、①～⑤の適切さを吟味する指導計画の評価が含まれる。
- ⑥ ①～⑤の計画、実施を適切に推進するための「指導体制」

①については、学校を単位として設定するものとするが、②～⑥については、課程や学科ごとに設定することも考えられる。以上を書き表した全体計画の様式の例を次のページに示す。必要な要素が含まれていれば、その様式は、各学校で自由に定めることができる。

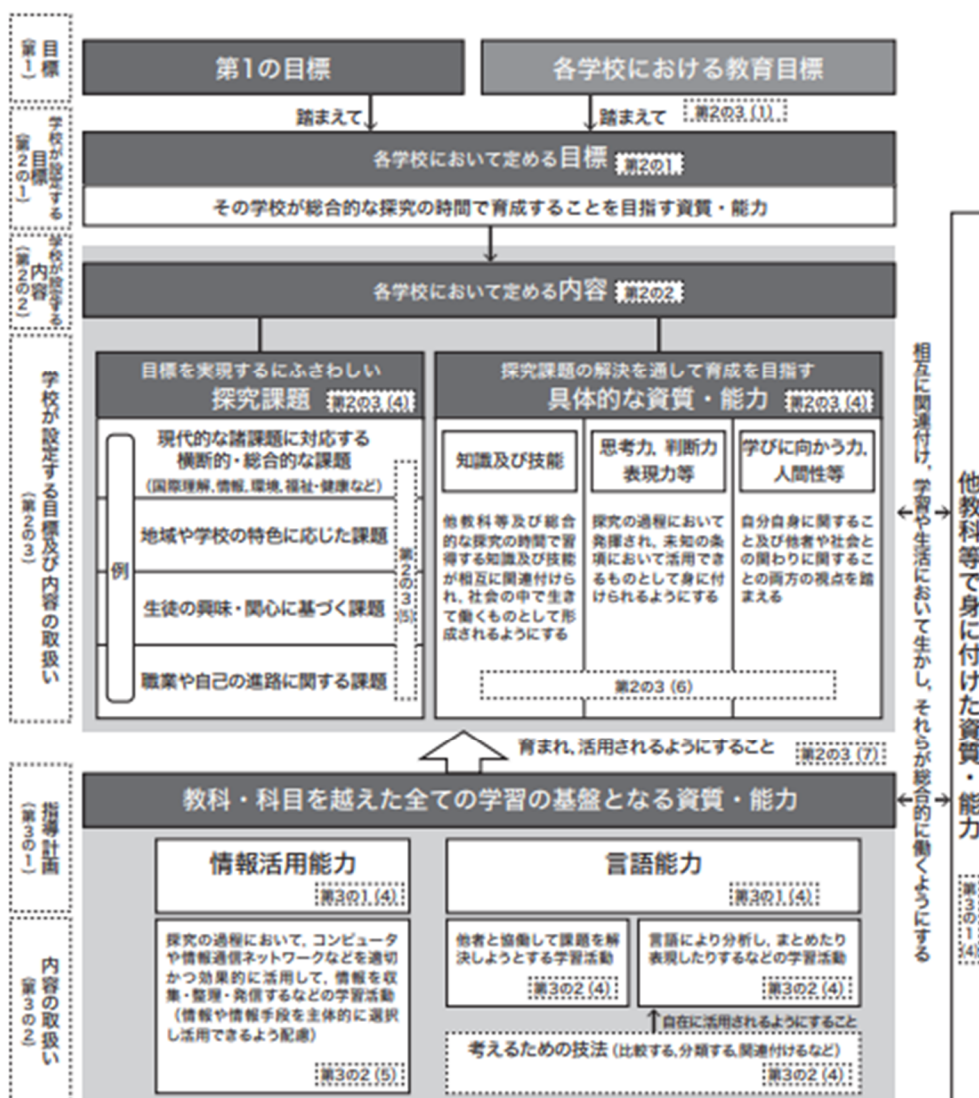
【全体計画の様式例】

高等学校学習指導要領（平成30年告示）「総合的な探究の時間」解説 文部科学省 を参考に作成



(2) 全体計画作成の流れ

各学校においては、総合的な探究の時間の必要性や重要性を再確認し、目標及び内容を定めることが求められる。なお、総合的な探究の時間に関する学習指導要領における各規定の相互の関係については、下の図の構造イメージのとおりである。



高等学校学習指導要領（平成30年告示）「総合的な探究の時間」解説より

【総合的な探究の時間 第1の目標】

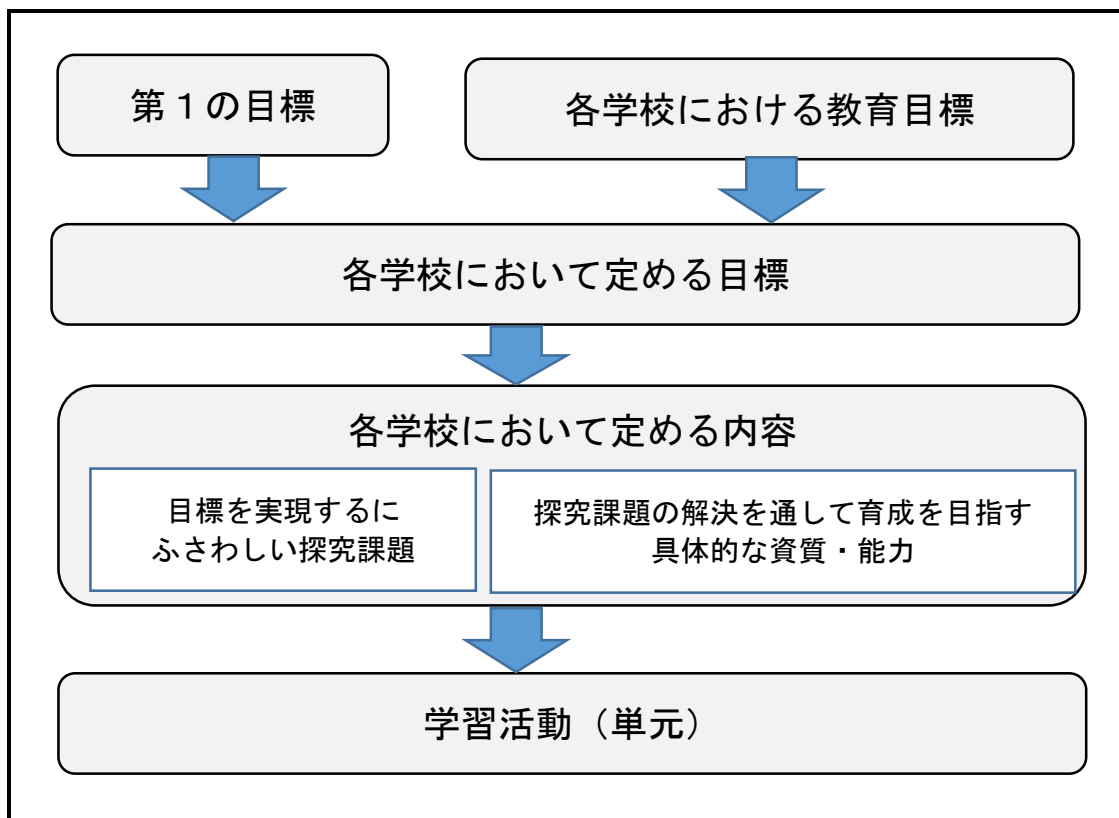
探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活と自己とのかかわりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う

高等学校学習指導要領（平成30年告示）「総合的な探究の時間」解説より

全体計画作成において、必須の要件として示すのが、①「各学校における教育目標」と、②「各学校において定める目標」、③「各学校において定める内容」である。総合的な探究の時間においては、横断的・総合的な学習や探究的な学習としての単元を実現することが欠かせない。そのためには、まず、第1の目標を踏まえるとともに、「各学校における教育目標」を踏まえ、学校の総合的な探究の時間の「目標」を設定する。さらに、内容として、「目標を実現するにふさわしい探究課題」及び「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」を設定する。そして、この2つを基に、実際に教室等で日々展開される学習活動、すなわち単元が、計画、実施される。この流れを図で示すと下の図のようになる。

【全体計画の必須の3要件】
 ①各学校における教育目標
 ②各学校において定める目標
 ③各学校において定める内容



(3) 「各学校において定める目標」の設定

各学校は、教育活動が創意工夫に満ちた、豊かなものになるよう、第1の目標を構成する以下の2つの要素を踏まえて、学校が育てたいと願う生徒の姿や育成を目指す資質・能力、学習活動の在り方などを表現した目標を設定する。

【「総合的な学習の時間」の第1の目標を構成する2つの要素】
 ①「探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して」、
 「自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指す」という2つの基本的な考え方を踏まえる。
 ②育成を目指す資質・能力については、「育成すべき資質・能力の三つの柱」である
 「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つそれぞれについて、第1の目標の趣旨を踏まえる。

「具体化」・・・学校の実態に応じて具体的に書き込む

例：社会の在り方について扱った学習を想定している場合に、「横断的・総合的な学習を行う」を具体化すると

- ・現代社会の諸問題について自分たちの生活とのかかわりに留意しながら探究することを通して
- ・グローバル社会に生きる人々の生活と地球環境についての探究的な学習を通して

「重点化」・・・2つの要素を示した上で、要素のいずれかを強調する

例：「学び方やものの考え方を身に付けること」を重点化すると

- ・仮説を立てて多角的に調査し、論理的、実証的に結論を導く考え方を身に付け
- ・課題解決を目指して多様な事例を比較・分析したり、因果関係を推論したりして考え

「付加」・・・学校が大切にしたいことについて、この時間の趣旨や教育課程上の位置付けに照らして妥当な要素を加える

例：・地域社会の一員としての自覚を深め

- ・持続可能な社会の形成に果たす役割を認識し
- ・自他の思いや個々人の尊厳を重んじ

なお、各学校において定める目標については、一文で表しても複数の文を列挙する形で表しても構わないが、詳しく書こうとすればするほど文章が長くなってしまい、かえって全体の意味の把握が難しくなってしまうことがある。適切な分量の中で、各学校が大切にしたいことを誰にでも分かりやすい表現で盛り込むように工夫することが重要である。具体的な生徒の姿をイメージしながら、各学校の実態に応じた目標の記述となるよう、何度も何度も校内で議論することが大切である。議論した内容については、年度が変わって、構成される教員が入れ替わったとしても共有する必要があるのは言うまでもない。

各学校において定める目標の設定にあたっては、先立って、総合的な探究の時間で育成したいものを明確化する必要がある。具体的には、各学校における教育目標ないしは育てたい生徒像のうち、他教科等で実現を目指している部分を確認した上で、総合的な探究の時間で育てたい生徒の姿を明らかにしていく。その際、右の点について考慮することが重要である。

- ・生徒の実態
- ・地域、社会の実態
- ・学校の実態
- ・生徒の成長に寄せる保護者の願い
- ・生徒の成長に寄せる地域の願い
- ・生徒の成長に寄せる教職員の願い

(4)「各学校において定める内容」の設定

各学校においては、第1の目標を踏まえ、各学校の総合的な探究の時間の内容を定めることが求められている。他の教科・科目と異なり、どの学年で何を指導するかを学習指導要領に明示していないのは、各学校が、地域や学校、生徒の実態に応じて、創意工夫を生かした内容を定めることが期待されているからである。

内容の設定に際しては、「目標を実現するにふさわしい探究課題」及び「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」の2つを定める必要がある。

【目標を実現するにふさわしい探究課題】

「目標を実現するにふさわしい探究課題」とは、目標の実現に向けて学校として設定した、生徒が探究に取り組むためのものであり、探究的に関わりを深める人・もの・ことを示したものである。具体的には、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、生徒の興味・関心に基づく課題、職業や自己の進路に関する課題などのこ

とで、横断的・総合的な学習としての性格をもち、探究の見方・考え方を働かせて学習することがふさわしく、それらの解決を通して育成される資質・能力が、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくことに結び付いていくような課題であることが求められる。

- ①探究の見方・考え方を働かせて学習することがふさわしい課題であること
- ②その課題をめぐって展開される学習が、横断的・総合的な学習としての性格をもつこと
- ③その課題を学ぶことにより、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくことに結び付いていくような資質・能力の育成が見込めること

例えば、以下の表を参考に各学校で探究課題を設定することが考えられる。なお、課題の設定に際しては、接続可能な開発目標（SDGs）の17の目標を参考にすることも考えられる。

探究課題		探究課題の例	
①横断的・総合的な課題	国際	地域に暮らす外国人とその人たちが大切にしている文化や多様な価値観	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の国々の伝統、文化、価値観等の特徴と地球市民としての自覚 ・日本の伝統、文化、価値観等の特徴と日本人としての自覚 ・国際社会の持続可能な発展のための課題と共生に向けた取組 など
	情報	情報化の進展とそれに伴う社会経済生活や消費行動の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信技術の進展による、社会経済や人々の消費行動、コミュニケーションスタイルの変化等に伴う問題状況 ・情報の収集・選択・発信における責任主体としての自覚 ・望ましい情報社会の構築に向けた情報リテラシー など
	環境	自然環境とそこに起きているグローバルな環境問題	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境のかけがえのなさとその人類的価値 ・地域の自然環境の調査とそこで見出された課題 ・国際関係の中での、環境の保全と社会の経済的発展との構造的課題 など
	福祉	高齢者の暮らしを支援する福祉の仕組みや取組	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の尊厳と自立に向けた支援における日本や諸外国の取組 ・わが町の高齢者福祉の現状と課題 ・福祉問題の解決やよりよい福祉を創造するための地域活動と参画 など
	健康	心身の健康とストレス社会の問題	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の意味と人間関係や社会・自然環境との関連 ・社会構造の変化と健康の保持・増進をめぐる問題状況 ・より健康で安全な生活を送るための対策や取組 など

高等学校学習指導要領（平成30年告示）「総合的な探究の時間」解説
「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」を参考に作成

探究課題			探究課題の例
①横断的・総合的な課題	資源エネルギー	社会生活の変化と資源やエネルギーの問題	<ul style="list-style-type: none"> 社会を支える資源・エネルギー活用と、その有限性や危険性、経済性との構造的課題 資源・エネルギー問題と自分たちの消費意識や行動とのかかわり 省資源・省エネルギーと持続可能な社会の構築のための取組 など
	食	食の問題とそれに関わる生産・流過程と消費行動	<ul style="list-style-type: none"> 日本の農水産業やその従事者の現状とグローバル化による変化 食の安全保障をめぐる生産や流通の現状と自分たちの食生活とのかかわり 食をめぐる問題の解決とよりよい食環境の創造を目指した取組 など
	科学技術	科学技術の発展と社会生活や経済活動の変化	<ul style="list-style-type: none"> 科学技術の発展に伴う生活様式や価値観、社会構造の変化 科学技術の発展がもたらした、私たちの暮らしの中の光と影 科学技術の進展と持続可能な社会の構築との共存 など
	地域行政・司法	地域行政や司法への高校生のかかわりと民主的な社会	<ul style="list-style-type: none"> 模擬裁判の実践を通して考える裁判員制度の在り方 国民の選挙への意識と行動の実態 地域に暮らす外国人の人権問題改善への取組など
	経済・消費	グローバル社会における経済不安と消費をめぐる問題	<ul style="list-style-type: none"> グローバル社会における経済格差の現状と私たちの生活 私たちの消費行動の変化と近未来の社会 持続可能な社会のための「消費者市民社会」「脱消費社会」構築への取組 など
②地域や学校の特色に応じた課題	町づくり	地域活性化に向けた特色ある取組	<ul style="list-style-type: none"> 地域の現状と地域の特徴・まちづくりや地域活性化への住民の取組 地域の担い手としての自覚や未来のまちづくりに向けた構想 など
	伝統文化	地域の伝統や文化とその継承に取り組む人々や組織	<ul style="list-style-type: none"> 地域の伝統や文化とその継承に取り組む人々や組織 など
	郷土	郷土の自然や風土、歴史と文学	<ul style="list-style-type: none"> 郷土の自然や風土の特徴と歴史的背景 郷土にまつわる文学作品や芸術作品の魅力 郷土への愛着と自然や風土を守ろうとする人々の取組 など
	地域経済	商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会	<ul style="list-style-type: none"> 商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会 など

探究課題			探究課題の例
②地域や学校の特徴に応じた課題	防災	安全な町づくりに向けた防災計画の策定	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害による被害の深刻さと広がり ・過去の災害の被害状況とその反省に基づく防災対策 ・地域社会の一員として、災害に備えた安全なまちづくりの担い手としての取組 など
	都市計画	歴史的な景観と利便性が調和した都市計画	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的な景観と住む人の利便性が調和した都市の姿 ・都市の変容とそこで暮らす人々の生活様式や価値観の変化 ・都市の活性化に向けた再開発への取組 など
	観光	新しい商品の開発による観光の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・地場産業や地域の産業の現状と課題 ・地域観光活性化のための地元の取組やアピール活動の実際 ・地域との協同による郷土の特産物を材料とした商品開発の可能性と販売促進への取組 など
③生徒の興味・関心に基づく課題	文化の創造	文化や流行の創造や表現	<ul style="list-style-type: none"> ・社会や時代の変化と流行の変遷との関連 ・流行や文化に対する自分たちの意識や行動の調査 ・社会への帰属意識と自己・個性の表現との対峙 など
	教育・保育	変化する社会と教育や保育の質的転換	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の転換・成熟社会における教育の在り方とその転換 ・自分たちの受けてきた教育の歴史的な位置付けや外国の現状 ・これからの社会に応じた教育や子育ての在り方への模索と取組 など
	生命・医療	生命の尊厳と医療や看護の現実	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の質や生命倫理等に関わる今日的課題 ・生殖補助医療や臓器移植等、最先端医療の是非と、治療を受けている人やその家族の思い ・自他の生命の尊厳を理解し守るための医療・看護の在り方と個々人の死生観 など
	共生	人の自立と多様な人々との共生	<ul style="list-style-type: none"> ・人の一生と自立した生き方 ・障害やトラブルを乗り越えた人々と周囲の支え ・ユニバーサルデザイン・ノーマライゼーションの考え方と共生社会に向けた取組 など
④職業や自己の進路・生き方に関する課題	人生観	物質的な豊かさと精神的な豊かさを巡る問題	<ul style="list-style-type: none"> ・「豊かさ観」の画一化がもたらす諸問題 ・自分たちの「豊かさ観」と異世代や諸外国の若者の「豊かさ観」との相違点とその要因 ・様々な年代による「人生観」とその違い など

探究課題		探究課題の例
④職業や自己の進路・生き方に関する課題	社会奉仕	ボランティア活動とそれに取り組む人々 ・ボランティアの考え方とその形成過程及び背景 ・ボランティア活動に取り組む人々の思いや願い ・ボランティア活動に対する社会的評価と活動を支援する社会的制度整備 など
	職業	職業の選択と社会貢献及び自己実現 ・社会貢献や自己実現のための職業選択への模索と取組 ・自分自身の職業的将来展望を模索する取組 ・様々な仕事の関連性と課題 など
	勤労	働くことの意味や価値と社会的責任 ・現代社会を作り、支える様々な職業や機関の機能や意義と課題 ・様々な勤労者の夢や思い ・経済的自立と働くことの意味と責任 など
	アイデンティティ	世界の中の日本・日本の中の地域・家族の中の自分等におけるアイデンティティ ・世界の中の日本の役割と課題、近未来のプランニング ・世界に誇れる日本人や日本文化 ・家族の中の自分、クラスの中の自分、アイデンティティに関わる思い など

これらは、あくまでも例である。これらの課題は、互いにつながり合い、かかわり合っている課題であり、それぞれの学習活動の広がりや深まりによって、しばしば関連して現れてくるものである。

各学校においては、生徒の地域の実情等を踏まえて、何が内容として適切であるかを判断することになるが、限られた時数の中で適切に扱うことが可能な内容には、おのずと限界がある。各学校が定めた目標や生徒の実態等に配慮し、全体としてのバランスをとりながら、優先順位を考え取捨選択することで、質と量の双方において適切な内容を選定することになる。

【探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力】

「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」とは、各学校において定める目標に記された資質・能力を、各探究課題に即して具体的に示したものであり、教師の適切な指導の下、生徒が各探究課題の解決に取り組む中で、育成することを目指す資質・能力のことである。したがって、「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」には、各学校の目標が実現された際に現れる望ましい生徒の成長の姿が示されることになる。「各学校において定める目標」と、「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」の2つにより、この時間の教育活動を通して「どんな生徒を育てたいか」を明示することになる。

以下に資質・能力の三つの柱に沿って例を示す。

〈知識及び技能〉

探究の過程において、それぞれの課題についての事実に知識や技能が獲得される。このうち、事実に知識は探究のプロセスが繰り返され、連続していく中で、何度も活用され発揮されていくことで、構造化され生きて働く概念的な知識へと高まっていく。総合的な探究の時間において、各教科・科目等の枠を超えて、知識や技能の統合がなされていくことにより、より一般化された概念的なものを学ぶことができる。例えば、以下のことが考えられる。

- ・それぞれには特徴があり，多種多様に存在している（多様性）
- ・それぞれに違いがあり，個別のよさをもっている（独自性）
- ・互いに関わりながらよさを生かしている（相互性）
- ・力を合わせ，目的の実現に向けて取り組む（協働性）
- ・物事には終わりがあり，限りがある（有限性）
- ・新しいものを創り出し，生み出していく（創造性）

「日本で生活をする外国人とその人たちの多様な価値観」を探究課題に設定した場合であれば，上記に沿って，以下のように具体的に考えることが想定される。直接的に学習で関わる対象は「日本で生活をする外国人とその暮らしや価値観」であっても，それを探究することを通して獲得される概念は，対象に限定された概念だけではなく，広く持続可能な社会づくりに関わる様々なテーマについて考える際にも使うことができる概念的な知識となり得ることに留意する。

- ・世界各地には，それぞれの文化や伝統があり，それを大切にして生活していることを理解している（独自性）
- ・文化的背景の多様性を受け入れつつ，様々な立場の人が支え合い，協力し合っていることを理解している（協働性）
- ・文化や伝統，生活様式の違いを生かした新しい価値を生み出していることを理解している（創造性）

なお，技能についても，探究のプロセスが繰り返され，連続していく中で，何度も活用され発揮されていくことで，自在に活用できる技能として身に付いていく。各学校においては，探究の過程に必要な技能の例を明示していくことが考えられる。

〈思考力，判断力，表現力等〉

「思考力，判断力，表現力等」の育成については，課題の発見と解決に向けて行われる横断的・総合的な学習や探究において，①課題の設定，②情報の収集，③整理・分析，④まとめ・表現の探究のプロセスが繰り返され，連続することによって実現される。この探究の過程では，「探究の見方・考え方」を働かせながら，それぞれのプロセスで期待される資質・能力が育成される。これらを育成することは，各教科・科目等の学習過程の質的向上に資することも意味している。

こうした思考力，判断力，表現力等は，この探究課題ならばこの力が育まれるといった対応関係はなく，複数の単元を通して，さらには学年や学校段階をまたいで，探究の過程を行うことで，時間をかけながら徐々に育成していくものである。生徒の発達段階や，課題の解決や探究活動への習熟の状況，その他生徒や学校の実態に応じて設定をすることが重要である。

なお，具体的には，以下の例が考えられる。

(例)

- | | |
|-----------------|---|
| 【課題の設定】 | <ul style="list-style-type: none"> ・複雑な問題状況の中から適切に課題を設定する ・仮説を立て，検証方法を考え，計画を立案する |
| 【情報の収集】 | <ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて手段を選択し，情報を収集する ・必要な情報を収集し，類別して蓄積する |
| 【整理・分析】 | <ul style="list-style-type: none"> ・複雑な問題状況における事実や関係を把握し，自分の考えをもつ ・視点を定めて多様な情報を分析する ・課題解決を目指して事実を比較したり，因果関係を推測したりして考える |
| 【まとめ・表現】 | <ul style="list-style-type: none"> ・相手や目的，意図に応じて論理的に表現する ・学習の仕方や進め方を内省し，現在及び将来の学習や生活に生かそうとする |

〈学びに向かう力、人間性等〉

「学びに向かう力、人間性等」は、自分自身に関すること及び他者や社会との関わりに関することの両方の視点を踏まえることが必要である。

自分自身に関することとしては、主体性や自己理解、社会参画などに関わる心情や態度、他者や社会との関わりに関することとしては、協働性、他者理解、社会貢献などに関わる心情や態度が考えられる。

一方で、自分自身に関することと他者や社会との関わりに関することとは截然と区別されるものではない。

以下に、例を示す。

【自己理解】	・探究を通して、自己を見つめ、自分の個性や特徴に向き合おうとする
【他者理解】	・探究を通して、異なる多様な意見を受け入れ尊重しようとする
【主体性】	・自分の意思で真摯に課題に向き合い、解決に向けた探究に取り組もうとする
【協働性】	・自他のよさを認め特徴を生かしながら、協働して解決に向けた探究に取り組もうとする
【将来展望】	・探究を通して、自己の在り方生き方を考えながら、将来社会の理想を実現しようとする
【社会参画】	・探究を通して、社会の形成者としての自覚をもって、社会に参画・貢献しようとする

(5) 学習活動と年間指導計画

「内容」とのかかわりにおいて実際に生徒が行う「学習活動」は、実際の指導計画においては、生徒にとって意味のある問題の解決や探究活動のまとめりとしての「単元」、さらにそれらを配列し、組織した「年間指導計画」として示される。「学習活動」の設定例としては、以下の例が考えられる。

(例)

- ・1年生は環境、福祉、2年生は進路、健康、3年生は国際理解、情報から探究課題を扱う
- ・1年間1テーマでの取組を基本とする
- ・1年生はホームルームでの研究、2年生はグループ研究、3年生は個人研究を扱う
- ・奉仕体験は年間を通しての帯単元として実施する
- ・10月の中間発表会と2月の最終発表会を節目とした単元展開を工夫する など

なお、年間指導計画及び単元計画は、全体計画とは異なり、生徒が日々取り組む学習活動の指導計画である。生徒の実態を踏まえ、学校や地域のもつ特色を生かし、現代的な諸課題につながるなどして探究するための計画であり、育成を目指す資質・能力を中心に計画を立てることが大切である。

年間指導計画とは、1年間の流れの中に単元を位置付けて示したものであり、どのような学習活動を、どのような時期に、どのくらいの時数で実施するのかなど、年間を通しての学習活動に関する指導の計画を分かりやすく示したものである。総合的な探究の時間における年間指導計画は、各学校で作成した総合的な探究の時間の全体計画を踏まえ、学年や学級において、その年度の総合的な探究の時間の学習活動の見直しをもつために、1年間にわたる生徒の学習活動を構想して示すものである。

単元計画とは、課題の解決や探究活動が発展的に繰り返される一連の学習活動のまとめりである単元についての指導計画である。単元は、目標を実現するにふさわしい探究課題及び探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力をよりどころとして計画され、実施される。

年間指導計画及び単元計画の作成に当たっては、前年度に教育課程の見直しを行っておくことが必要である。前年度の学習活動の様子と、校内をはじめとする当該学年の過去の実践事例を基に、全体計画を参

照し、学習活動や育成を目指す資質・能力の実現を中心に計画を立案し、見通しをもって4月を迎えることが大切である。年間指導計画と単元計画は相互に関連しており、その作成作業の実際においては、両者を常に視野に入れ、それぞれの計画を作成することが大切である。

(6) 指導方法と指導体制

以下に、指導方法と指導体制の例を示す。

【指導方法】

- ・生徒の課題意識を連続的に発展し、深化させる支援
- ・個に応じた指導の工夫
- ・諸感覚を駆使する体験活動の重視
- ・協働的な学習活動の充実
- ・教科・科目等との関連的な指導の重視
- ・対話を中心とした個別支援の徹底
- ・言語活動による体験の意味の自覚化と深化 など

【指導体制】

- ・運営委員会における校内の連絡調整と支援体制の確立
- ・カリキュラム管理室を拠点とした情報の集積と活用
- ・広範な学習支援者や地域学校協働活動推進員等のコーディネーターとの連携体制
- ・地域教育力の人材バンクへの登録と効果的運用
- ・ティーム・ティーチングの日常化
- ・ワークショップ研修の重視
- ・担任外の教職員による支援体制の樹立
- ・メディアセンターとしての余裕教室の整備・充実 など

指導方法と指導体制を確立させるためには、各学校の教育目標の実現に当たって総合的な探究の時間が重要な役割を果たすことを全教職員で理解することが欠かせない。そのうえで、校長の方針に基づき、総合的な探究の時間の目標が達成できるように、全教職員が協力して全体計画及び各学年の年間指導計画、単元計画などを作成し、互いの専門性や特性を発揮し合って実践していく校内推進体制を整える必要がある。校内推進体制の整備に当たっては、全教職員が目標を共有しながら校務分掌に基づいて適切に役割を分担するとともに、教職員間及び校外の支援者とのコミュニケーションを密にすることが肝要である。

しかしながら、そのコミュニケーションがうまくいかなかったり、担当1人の力に頼り過ぎてしまう学校では、個人間の温度差が生じたり、全体に波及していかなかったりといったことが想定される。いかに、学校全体で取り組めるかが大切となってくる。以下に、そのポイントとなる点を挙げておく。

- ・主担当だけが考えるのではなく、数人でチームを組んで話し合いを持ち、最終的には学年、学校全体でも共有を図るようになる
- ・話し合いでは、どのような活動が生徒をより伸ばすことができるかという観点で意見を出し合う
- ・学年会議等では、毎週の内容だけではなく、ねらいや押さえて欲しいポイントも共有する
- ・総合的な探究の時間の様子を共有するため、様々な形で公開する
学年だより、学級だより、学年掲示、数回の発表会、発表資料等の共有
ホームページやSNSでの情報発信
- ・生徒の成果物に対する指導方法の検討、教員研修 など

(7) 学習の評価等

以下に、学習の評価等の例を示す。

[学習の評価等]

- ・ポートフォリオを活用した評価の充実
- ・観点別学習状況を把握するための評価規準の設定
- ・個人内評価の重視
- ・指導と評価の一体化の充実
- ・学期末、学年末における指導計画の評価の実施
- ・授業分析による学習指導の評価の重視
- ・学校運営協議会における教育課程に対する評価の実施 など

(8) その他

学習の評価の事例を示すにあたり、基盤となる全体計画作成の流れを示してきたが、より詳細な内容について知りたい場合は高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説を参照していただきたい。年間指導計画や単元計画に関する事、評価に関する事、校内の体制に関する事、外部との連携体制の構築に関する事等、総合的な探究の時間の全体計画を作成する上で必須となることについて具体的に記載されている。

4 学習評価に関する事例について

学習評価をするにあたって、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順や、単元ごとの学習評価の進め方、事例については、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（令和3年8月・国立教育政策研究所）に掲載されているところだが、本事例集では事例を補うものとして、3つの事例を紹介する。

各事例概要一覧と事例

事例1 キーワード 「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の評価の工夫

「探究スキルを身に付ける」(第1学年「探究手法」「課題設定」「デザイン思考」全35時間)

探究活動の基礎となる知識や技能を体験しながら身に付け、次年度の探究テーマを設定するという実践を例に、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の評価について示している。

本事例は、入学後、探究活動に向かう一年生を対象とした入門講座であり、課題発見や設定・課題調査に関する手法を、実際に探究活動を体験する形式で学んでいくことで、2年生以降で行う個人・グループでの探究活動の基礎となる能力を養うものである。一年間の活動のまとめとして、これまで体験してきた探究活動を踏まえ、自己の在り方生き方とも関連付けながら、2年生以降での探究テーマを設定する活動を設けており、生徒が主体的に探究活動に取り組むことができるよう内容を工夫し、その過程を適切に評価できるようにルーブリック評価を用いるなどの工夫をした。

事例2 キーワード 指導と評価の計画から総括まで

「地域の課題から探究する」(第1学年「地域」「探究の過程」「課題設定」全35時間)

探究課題を「地域の課題から探究する」とした第1学年の実践を例に、指導と評価の計画から評価の総括までについて示している。

本事例は、宮城県や地域における課題をプレ探究活動のテーマとして、探究の過程を経験しながら、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、様々な視野や視座から物事を捉え、多様な考えを持つものが意見を出し合い、協働的に課題を解決する方法を学習していく姿を想定しながら、指導と評価の計画を構想した。また、指導と評価の計画に加えて、3つの評価の観点における学習活動と評価の実際、評価結果の総括、指導計画の評価、改善までの一連の評価活動を取り上げることで、総合的な探究の時間における指導と評価の概要が把握できよう工夫した。

事例3 キーワード 普通科におけるインターンシップの充実に重点を置いた指導と評価の計画 三つの観点の評価

「社会貢献や自己実現のための職業選択への模索と、自己を分析し、未来予想をする」(第2学年「地域」「職業」「課題発見」「自己理解」「将来展望」全35時間)

本事例は、夏休みに、地元企業や町役場の協力を得て、3日間のインターンシップを行うことを企画し、事前指導及び事後指導を行うとともに、その後の大学・学部選択と結び付けて、進路意識の向上を図るものである。普通科におけるインターンシップの充実にについては、以前よりその必要性が指摘されていることもあるが、単なる就業体験ではなく、探究型のインターンシップとして活用する事例として挙げたものである。

総合的な探究の時間を充実させるためには、校内の同学年の活動だけではなく、広い視点からの意見をもらうためにも、閉鎖的な活動ではなく、他学年との関わり、外部機関との連携を重視するなど、開放的な活動を推奨したい。

総合的な探究の時間（例）

キーワード 「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の評価の工夫

単元名

探究スキルを身に付ける
（1年生）

内容のまとめ

「探究手法」「課題設定」「デザイン思考」（全35時間）

本単元は、入学後、探究活動に向かう一年生を対象とした入門講座である。課題発見や設定・課題を設定するための調査に関する手法について、実際に探究活動を体験する形式で学んでいくことで、2年生以降で行う個人・グループでの探究活動の基礎となる能力を養うものである。2年生以降は、「学問探究」「課題解決」「体験実習」「表現芸術」の4つの領域から一つを選択して、領域内で複数開講されるゼミナールを一つ選んで所属し、探究活動を3年生と協力しながら行う、異年齢集団での縦割りの探究活動を取り入れており、その準備段階という位置づけである。

1 単元の目標

- (1) 探究課題に対して多角的に追究したり、仮説を立てながら調査を行ったりするなど、探究活動に必要な手法を身に付ける。
- (2) 身近な課題や現代社会の課題に関する調査を通して、探究の四つの過程を実際に体験しながら、課題の解決に向け、複数の課題を関連させて思考することができる。
- (3) 探究活動に主体的・協働的に取り組む姿勢を養うとともに、実社会や自己の在り方生き方に対して目を向け、自ら課題を設定し、探究しようとする姿勢を持つ。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①探究活動を行うためには様々なスキルが必要であり、文献調査だけでなく、統計調査やアンケート調査、観察・実験、フィールドワークなど、多様な手法を組み合わせる必要があることを理解している。 ②身近な課題を解決するためには、問題の背景や原因を理解して、仮説を立てながら調査を行う必要があることを理解している。	①探究手法それぞれの特徴や有意性を理解し、場面・目的に応じて、文献調査やアンケート調査など、適切な手法を用いることができる。 ②身近な課題や現代社会の課題同士がつながることで解決策が生まれることがあることに気が付くことができる。	①探究活動の体験を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。 ②実社会に目を向け、自己の在り方生き方と照らし合わせながら、自ら課題を設定し、追究し続けようとしている。

3 指導と評価の計画 (35 時間)

小単元名 (時数)	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1 探究活動とは何かを学ぼう。(16)	<ul style="list-style-type: none"> ・K J法やブレインストーミング, デザイン思考といった具体的な探究手法や情報検索の方法, 考え方, 学問等について学ぶ。 ・理想の小学校について, グループで視点を設定してスライドを作成する。 <p>具体的な事例①「思考・判断・表現①」</p>	①	①		<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート ・スライド発表 ・発表評価シート
2 身近な課題や現代社会の課題について, グループで調査してみよう。(13)	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの課題や社会の課題を書き出し, グループごとに取り上げる課題を一つ選んで, テーマ設定を行う。 ・設定したテーマについて, グループで探究活動を行い, 自分たちなりの解決策を含めた形で, スライドを作成して発表する。 	②	① ②	①	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート ・スライド発表 ・発表評価シート
3 探究活動のテーマを設定しよう。(6)	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生で行う個人・グループでの探究活動で何を研究するか, またどのような方法で研究内容を表現するか, という視点でテーマ設定を行う。 ・設定したテーマに関する発表を行う。 ・自分がどのゼミに所属するか決定する。 <p>具体的な事例②「主体的に学習に取り組む態度②」</p>			②	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ設定用紙 ・テーマ発表 ・ループリック評価

本単元は、2年生での探究活動を見据えて、個人ないしはグループでテーマ設定を行い、発表することを活動のまとめとして設定した。そこで、以下に示す三つの小単元で年間の活動を構成した。

小単元1は、探究活動で必要となるスキルについて、理論を学んだうえで実践するという形で構成した。具体的には、K J法やブレインストーミングを用いてグループごとに与えられたテーマについて取り組むこと（例：漫画雑誌の活用方法を30個挙げてみる）、書籍・新聞・インターネット検索などの情報検索に関して学ぶ活動、大学などで学ぶ「学問」についてその中身を調査する活動と、クラス内で小グループを作り、デザイン思考を用いて「理想の小学校」について考案する活動の二つを柱とした。

様々な探究手法を学ぶ中で、どれか一つだけを用いるのではなく、複数の手法を用いて、多角的に探究活動を行う必要があることに気が付くことができる場面であることから、「知識・技能①」の評価規準を設定した。また、理想の小学校について考案する活動を通じて、探究手法それぞれの特徴を踏まえて、自

分たちにとって必要な手法を選び、実際に活用する場面でもあることから、「思考・判断・表現①」の評価規準を設定した。

小単元2では、身近な課題や現代社会の課題について、グループで探究活動を行うことになるが、自分たちなりの視点・着眼点でテーマを設定し、文献やインターネット検索・統計資料などを活用しながら、課題の解決策を考案する活動である。自分たちなりの視点をもつということは、仮説を立てるということであり、仮説に基づいて調査を行う必要性を学ぶことができることから、「知識・技能②」の評価規準を設定した。また、適切な探究手法を用いることが必要であることと、課題について研究を行う中で、別な課題が解決の妨げになっていたり、逆に解決の糸口となっていたりすることもあることに気が付くことができることから、「思考・判断・表現①」と「思考・判断・表現②」の評価規準を設定した。さらに、グループで探究活動を行う上で、話し合い活動などで相手の意思を尊重する場面が多く生まれることから、「主体的に学習に取り組む態度①」の評価規準を設定した。

小単元3では、一年間の活動のまとめとして、これまで体験してきた探究活動を踏まえ、自己の在り方生き方とも関連付けながら、2年生以降での探究テーマを設定する活動が柱であることから、「主体的に学習に取り組む態度②」の評価規準を設定した。

4 観点別学習状況の評価の進め方

(1) 思考・判断・表現（具体的事例①）

① 評価場面

Aグループは、「理想の小学校」について話し合い活動を行いながら、考えを深める中で、ランドセルの重さに着目した。デザイン思考を活用して問題について分析を行った結果、置き勉ができないこと、教材が多くて重すぎるのが原因であると仮説を立てた。次になぜ現状でランドセルが活用されているのかということや、置き勉のメリット・デメリットについて調査を行い、解決策を考案した。具体的には、置き勉用の教室を設けて防犯対策を行うこと、デジタル教科書の活用の促進、リュックサックの活用などを提案した。このような場面では学んできた探究手法を適切に組み合わせ、具体的な解決策を考案する姿が期待される。

② 学習活動における生徒の姿と評価結果

【評価規準「思考・判断・表現①」】

探究手法それぞれの特徴や有意性を理解し、場面・目的に応じて、文献調査やアンケート調査など、適切な手法を用いることができる。

Aグループが作成したスライドの記述に着目した。

スライドの記述の一部

○問題の本質
置き勉をさせてもらえない
ロッカーが小さい
ランドセル・教材などが重すぎる
○問題の背景
置き勉について …文部科学省は重い荷物が成長途上の子どもに悪影響と指摘しているが、置き勉が禁止されている現状がある。
置き勉が禁止の理由 家庭での自主学習を促すため、忘れ物をしない習慣をつけるため
置き勉のメリット・デメリット

ランドセルを背負うことの影響 …ランドセル症候群に陥る可能性がある（身体・心への影響）

○解決策

学校改革 …置き勉用の教室を作る，ロッカーを六角形にする，一日の教科数を減らす

教材改革 …デジタル教科書（ペーパーレス化）

ランドセル改革 …リュック，体操着袋，ランドセルの肩の部分の面積を広くする

【評価の結果】

Aグループは、「理想の小学校」について，ランドセルという自分たちが実際に使用してきたものに着眼して考察を行っている。具体的な解決策として置き勉用の教室を作る，デジタル教科書，ランドセル自体を変える，もしくは使用しないという視点を得ることができた。また，自分たちの解決策を提案する際に，問題の本質や，なぜそうした現状があったのかといった背景にも目を向けており，評価規準に示す資質・能力が育成されていると考えることができる。

(2) 「主体的に学習に取り組む態度」(具体的事例②)

① 評価場面

生徒Bはこれまでの探究活動の体験や学習した内容を受けて，自分が将来教職の道を志しており，「教員の児童生徒との接し方」について，実際に本校の教員や他校の教員等にアンケートをとって調査をしたり，教員を養成する大学教授にインタビュー調査をしたりしてみたい，と考えていたことから，「体験実習」の領域を選択して，その中で開講されている「教育ゼミナール」に所属することを希望して，テーマを設定した。この場面では自身のこれまでの経験や，これからの在り方生き方と関連付けながら，また，どのような方法で研究を行いたいかという視点からテーマ・所属ゼミを決定する姿勢が期待される。

② 学習活動における生徒の姿と評価結果

【評価規準「主体的に学習に取り組む態度②」】

実社会に目を向け，自己の在り方生き方と照らし合わせながら，自ら課題を設定し，追究し続けようとしている。

生徒Bが作成したテーマ設定用紙の記述に着目した。

テーマ設定用紙の一部

私がこのテーマを選択したのは，昔から子どもたちを育て導く「先生」という立場に興味関心があったためである。

(中略)

我々が児童・生徒であったときに見える先生方の姿はほんの一部に過ぎず，普段どのような思いを抱いて子どもたちに接しているのか，子どもたちがいない場面ではどのような仕事を行っているのか，ほとんど見えてこない部分がある。

(中略)

私自身，興味を持ったので教育関連の書籍を読んだり，恩師の先生に話を伺ったりしてみたが，見えてこない部分がある。そこで，実際に子どもたちとのかかわり方を体験することで，教員の仕事についてや，児童・生徒に寄り添うとはどのようなことを指すのか，学んでいきたいと考え，本テーマを設定した。

③ ルーブリック（一例）（項目ごとに○・△・×をつけて自己評価を行う）

主体的に学びに向かう力	8. 積極性	主体性	探究活動により培われる力を自覚して、自ら行動することができる。	<input type="checkbox"/> 主体的に探究活動に取り組んだ。 ①探究活動により培われる力を理解している。 ②授業時間以外にも探究活動に取り組んだ。 ③新たな課題を発見するなど、課題意識を更新し続けている。 ④計画通りに探究活動を行うことができた。 ⑤日常生活の中で、課題に関する情報に自然と意識が向かうようになった。 ⑥外部の機関・施設を訪れるなど、校外での研修を行った。 ⑦専門家に質問するなど、見識を高めようと努力した。	①		
		探究活動への意欲	課題意識を更新し続けることができる。		②		
		実行力	計画を遂行していくことができる。		③		
	9. 協同性	協調性	他者と協力して探究活動に取り組み、互いに高め合うことができる。		<input type="checkbox"/> 他者と協力しながら探究活動に取り組んだ。 ①グループ内での役割を十分に果たした。 ②話し合いの際に建設的な意見を述べることができた。 ③発表を聞いてそれに対する疑問や意見を積極的に伝えた。 ④相手に意見を述べる際に、言葉遣いや態度に気を配った。 ⑤相手の良い点や個性を積極的に認めようとした。 ⑥他者の意見を否定せず、柔軟に取り入れた。	④	
		柔軟性	他者の意見等を取り入れて柔軟に思考を再構築できる。			⑤	
		奉仕の精神	他者の探究活動に有効な意見を積極的に提供することができる。			⑥	

生徒Bは、教育現場が多様化・困難化する現状を踏まえ、社会における教員や学校の役割にも着目をしてみるとよい、という教員の助言を元に、「教員が児童生徒とどのように接することが、生徒に寄り添う形になるのか」という視点をもって、必要な情報を収集した。文部科学省や国立教育政策研究所のホームページ等も参照しながら、具体的な事例を根拠として最終的にテーマを設定したが、自身の在り方生き方も照らし合わせながら追究可能なテーマ・所属ゼミナールを選んだことから、評価規準に示す資質・能力が育成されていると考えることができる。

また、年度末の評価としてルーブリック評価を用いているが、生徒自身に該当項目について○・△・×で自己評価を実施させ、特にこれまでの活動や小単元3での活動を通じて「伸ばすことができた」能力を選び、記録をつけさせる。その評価・記録を元に教員が適宜面談や提出されたテーマ設定用紙などと照らし合わせながら、最終評価を行うこととしている。このルーブリック評価は2年生・3年生の探究活動でも継続して使用することで、生徒が3年間の探究活動を通じて、どの部分を伸ばすことができたのか、について、自分自身で見取ることが可能であり、生徒の自己肯定感の高揚につながると考えられる。

以下に、探究課題からテーマ設定を支援するまでの一例を掲載する。

・生徒が何を探究したいか、決まっていない場合は身近な課題や気になるニュース・単語からウェビングマップ形式で思考を広げていく。決まっている場合は、その課題と社会との関連性などを深める。

例 生徒：自宅付近のゴミ集積所の臭いが辛いことが問題としてある。

教員：確かに臭いのは辛いね。それでは、臭いの原因として考えられることを書き出してみよう。

生徒：前の日にゴミを捨てる人がいる。ゴミの多くは生ゴミなのでそれが臭う。

ゴミ集積の場所が2か所しかなく、多くのゴミが集まってくる。

ゴミの収集に時間がかかっている。などが考えられる。

教員：なぜ前の日にゴミを出すのだろう。何らかの理由があるのかな。生ゴミはなぜ臭くなるのかな。確かにゴミの集積所はもっと合っても良いよね。その周辺に2つしかないのはなぜなのだろう。ゴミの集積を題材に考えると色々な課題が見えてくるね。その中で何から解決を図れば良いかな。

生徒：隣町ではゴミ集積所をケースで覆っていて臭くないという話を友人から聞いたよ。ゴミ集積所の場所を変えたりゴミを集積するスペースをプラスチックの蓋などで覆ったりすることも考えられるね。他にも、生ゴミを臭わないようにする工夫や技術がもしかしたらあるかも知れないね。ゴミの収集に時間がかかっているということは、集める人たちの人手不足なども課題なのかな。

教員：ここまで挙げた原因のうち、さらに追究してみたいと感じたものはどれかな。

生徒：ゴミ収集の業者の仕組みについて気になった。また、世界のゴミ収集事情はどうなっているのかも気になる。

教員：業者に視点を置くのであれば雇用創出という観点から考えることができるのではないかな。

この生徒は、「ゴミ収集についての日本と世界の現状、雇用問題」という方向性で探究活動を行うこととした。

総合的な探究の時間

キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで

単元名地域の課題から探究する
(1年生)**内容のまとめ**

「地域」「探究の過程」「課題設定」(全35時間)

本単元では、宮城県や地域における課題をブレ探究活動のテーマとして、探究の過程を経験しながら、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、様々な視野や視座から物事を捉え、多様な考えを持つものが意見を出し合い、協働的に課題を解決する方法を学習していく。

1 単元の目標

- (1) 「課題の設定」「情報の収集」「情報の整理・分析」「まとめ・表現」をベースにした探究サイクルに基づいて探究活動を行うことにより、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
- (2) 地域の課題や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①「課題の設定」「情報の収集」「情報の整理・分析」「まとめ・表現」をベースにした探究の過程に基づいて探究活動を行うことにより、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付けている。 ②課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。	①SDGs ワークショップの内容を深く理解し、課題発見と解決に向けた思考及び判断等を行っている。 ②地域の課題や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、得られた数値や情報を適切に処理して表現しようとしている。 ③合理的・客観的な情報を用いて、公平な見方や考え方に基づいて判断しようとしている。	①探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。

3 指導と評価の計画 (35 時間)

小単元名 (時数)	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1 探究活動を学ぼう。 (14)	<ul style="list-style-type: none"> 宮城県や地域を題材とした SDGs ワークショップを通して、自身が気付いたことや考えたこと等について思考ツール等の技法を用いて見える化するとともに、他者の考えを見たり、聞いたりする。 「情報の収集」や「整理・分析」を行うことにより、ワークショップの内容を深く理解するとともに、課題の設定や探究計画の立案を行う。 <p>具体的な事例①「知識・技能①」及び「思考・判断・表現①」</p>	①	①		<ul style="list-style-type: none"> 記録用紙 探究計画書 クラス発表会
2 プレ探究活動を通して課題を解決しよう。(21)	<ul style="list-style-type: none"> 自らの興味関心に基づいた課題を設定して、探究計画書に沿って課題研究を行う。 関係機関を訪問したり、取材やアンケートを実施したりするなど、課題解決への見通しを持ちながら探究活動を行う。 発表会を通して多様な意見を聞き、研究の意義や価値を高めるとともに、探究活動や課題の内容についての振り返りを行う。 <p>具体的な事例②「思考・判断・表現③」及び「主体的に学習に取り組む態度①」</p>	②	② ③	①	<ul style="list-style-type: none"> 記録用紙 探究計画書 レポート 振り返りシート

4 観点別学習状況の評価の進め方

(1) 「知識・技能」及び「思考・判断・表現」(具体的事例①)

① 評価場面

本単元の導入では、第1学年の後半で行うプレ探究活動に向けて、SDGs ワークショップにおいて興味のある分野を選んで参加し、自身が気付いたことや考えたこと等について思考ツール等の技法を用いて見える化を行う。また、ディスカッションを通して自ら設定する課題についての視点を見出していく。その際、「課題の設定」「情報の収集」「情報の整理・分析」「まとめ・表現」をベースにした探究の過程に基づいて探究活動を行うことにより、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、また、プレ探究活動に向けて、それまでの取組をまとめることにより思考力・判断力・表現力を育成する。

ここでは、SDGs ワークショップの内容を踏まえ、主に探究計画書に記載された内容を「知識・技能①」及び「思考・判断・表現①」の評価資料とした。

② 学習活動における生徒の姿と評価結果

【評価規準「知識・技能①」】

「課題の設定」「情報の収集」「情報の整理・分析」「まとめ・表現」をベースにした探究の過程に基づいて探究活動を行うことにより、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付けている。

【評価規準「思考・判断・表現①」】

SDGs ワークショップの内容を深く理解し、課題発見と解決に向けた思考及び判断等を行っている。

【生徒Aが作成した探究計画書の記述】 探究計画書の一部

(「探究計画書」とは小単元1を通じて継続使用しているプリント)

1. SDGs ワークショップの中で気になったテーマ
「地域を支える産業の未来」
2. 上記1のテーマについて、思考ツール等を用いて出てきたものを焦点化しよう
 - ・宮城県の伝統的な産業や新しい産業にはどのようなものがあるのか
 - ・いつから、なぜ、その産業が行われているのか
 - ・売上金額や従事している人の平均年齢はどのように推移しているか
 - ・なぜ後継者問題が起こるのか
 - ・その産業が県やその地域にもたらしているもの（自然環境や経済効果等）は何か
 - ・県や市役所の支援にはどのようなものがあるか
 - ・他県や海外にも同様の産業があるか
 - ・活性化するための効果的な情報発信はどのようなものがあるか
3. 上記2の問いにおいて、自身の日常生活と関わりのある（関わることのできる）ものは何か。
 - ・自分が住んでいる地域の産業のうち、ある1つの産業が抱える課題にフォーカスをして、仕事の内容や魅力、売上金額、後継者問題等、日常生活との関わりという視点から考えていきたい。
4. プレ探究活動におけるテーマとその設置理由
 - ◆プレ探究活動のテーマ
「●●市を支える農業とその未来」
 - ◆調べた文献と概要等
 - ・農業従事者が2005年からの15年間で約90万人減少している。一方で20～49歳の従事者は微増している。農業部門別で見ると49歳以下が占める割合が5.5%の部門と31.0%の部門があり部門別に年齢差に大きな違いがある。(農林水産省「令和3年度食料・農業・農村白書」)
 - ・米の消費量の変化(1人1年あたり)でみると昭和38年は118.3kgだったのに対して平成24年は56.3kgと50年間で約半分になっている。(NHK for school)
 - ・農業者の高齢化や労働力不足が進む中、農業分野におけるデジタル技術活用を前提に、経営の高度化や生産から流通・加工、販売等の改革を進め、生産性の向上を図ることが不可欠である。(農林水産省「農業DXをめぐる現状と課題」)
 - ◆プレ探究活動におけるテーマの設置理由
私は、私たちの学校がある●●市の「農業分野」にフォーカスをして探究活動を行いたい。以前に、後継者がおらず廃業する農家が出てきているというニュースを見て、高齢化と後継者不足野問題は認識していたものの、実際にそれが私の生活にどのような影響が出てくるのかイメージをしたことはなかった。しかし、SDGs ワークショップで宮城県の産業について話を伺ったときに、宮城県の農産物や魚介類が食べられないとしたら食卓からどのようなものが消えますかということを知られたときに大きな危機感を持ちました。
私は地域の農業を支えるために、まずは市職員や農協の方へのインタビュー調査、市場調査等を行って具体的な実情を明らかにしたいと思っています。また、観光業や別な産業とのコラボレーションやインターネットを用いて世界中に販路を広げるなど、様々な産業の視点と合わせながら地域農業の活性化に取り組んでいきたいと思っています。自分自身でできることだけでなく、他者と一緒でできることを見つけて少しずつ発信先を広げていきたいと思っています。

【評価の結果】

生徒Aは地域の産業について興味・関心があり、SDGs ワークショップでは「農業分野」をテーマに選んだ。最初は少子高齢化に伴って地域の産業はやがて衰退していくという視点で考えていたようであるが、地域の様々な分野が結びつくことで新たな価値を生み出すことができること。また、インターネット等を使えば世界中の人々を相手に商売ができることなど、様々な視点から地域の産業を活性化できることに気が付いた。実際に農業を行っている人だけでなく、市の担当者にもインタビューを計画している。また自分自身の行為や市民としてできることなどをまとめていこうとしている。

ブレ探究活動のテーマと解決するために、SDGs ワークショップにおいて、参加者と議論を行って出てきた発言内容について思考ツール等の技法を用いて焦点化を行ったり、自身で見出した課題に対して「情報の収集」「情報の整理・分析」「まとめ・表現」をベースにした探究の過程に基づいて探究活動を行ったりしながら、それらの成果をプリントにまとめた。記述分析を行ない、複数の文献にあたっていること、それらを踏まえて課題を焦点化し、ブレ探究活動で行いたいことを表現していることなどを鑑み、課題の発見と解決に必要な知識及び技能、思考・判断・表現を身に付けていると評価できる。

(2) 「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」(具体的事例②)

① 評価場面

小単元2の後半ではブレ探究活動を行う。その終盤においてレポートを作成してミニ発表会を行うことにより、探究活動の中で思考してきたことや探究活動を通して主体的に取り組んできたかを見取る。具体的には合理的・客観的な情報を用いて、公平な見方や考え方に基づいて判断する力及び主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を見取るものである。

ここでは、発表会に向けて作成したレポート及び振り返りシートの記述を評価資料としてループブックに当てはめ、「思考・判断・表現②」及び「主体的に学習に取り組む態度①」を評価することとした。

② 学習活動における生徒の姿と評価結果

【評価規準「思考・判断・表現③」】

合理的・客観的な情報を用いて、公平な見方や考え方に基づいて判断しようとしている。

【評価規準「主体的に学習に取り組む態度①」】

探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。

【生徒Bが作成したレポートの記述】 レポートの一部

日本の年間食品廃棄量は約2510万トンで、そのうち本来食べられるのに廃棄されているもの、いわゆる「食品ロス」は年間約500～700万トンにも及んでいる。食品ロスの約300万トン(54%)は事業から出ているが、約260万トン(46%)は家庭から出ている。一方、世界に目を向けると人口の10人に1人の割合で栄養不足が起こっている。

食品ロスをなくす取組は日常生活でも見受けられるようになってきている。例えば・・・省略・・・食品ロスを減らす取組として行われているフードバンクについて実施している企業と協力企業にインタビューを行って課題を明らかにするとともに、そのインタビューから明らかになった課題の1つに対して、アプリの開発によって課題を解決できるのではないかと考えている。・・・省略・・・フードバンク側は児童施設や福祉施設において必要としている食品の情報を発信でき、食品提供者側は複数のフードバンクの情報をまとめてみることができる。・・・省略・・・

③ ルーブリック

	思考・判断・表現			主体的に学習取り組む態度		
	合理性	客観性	公平性	主体性	協働性	創造性
A：目標以上	※学校ごとに目標や育てたい資質・能力等が異なるため、具体的評価基準については省略する。					
B：目標						
C：努力が必要						

※このルーブリック表については、プレ探究活動が始まる前に生徒に提示し、担当教員が生徒の進捗状況を把握したり助言を与えたりする際に利用して、育成したい資質・能力を見据えながら形成的評価を行っていく。

【評価の結果】

生徒Bは、食品ロスを減らすことを班のテーマに設定した。食品ロスの現状と課題を知るために、多くの資料を参考にするとともに実際に実施している企業や協力している企業に赴きインタビューを行った。そして、企業から出てきた課題の1つについて解決するため家庭内でできる取り組みのほか、フードバンクを行っている企業と食品を提供する側の立場に立ったアプリの開発ということを考えている。生徒Bは企業等へインタビューに行ったり、新しいアイデアを作り出したりする過程で、班員と様々な議論を重ねており、さらに新しいアイデアの実現に向けて協力体制が強まっている姿がうかがえる。このレポートに書かれている内容を基にルーブリック表に当てはめた結果、いずれにおいても評価基準に示す資質・能力が育成されていると評価できる。

5 評価結果の総括

(1) 評価結果の総括と指導要録の記載

例えば、生徒Aについては、次のような記述が考えられる。

学習活動	観点	評価
地域の課題から探究する（令和4年度）	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	SDGs ワークショップでは、探究の過程に基づいた探究活動が身に付け、具体的な調査研究方法を考えた。プレ課題研究では、班員と議論を重ね、提言をまとめるなど課題を解決する姿勢が強まっている。（令和4年度）

例えば、生徒Bについては、次のような記述が考えられる。

学習活動	観点	評価
地域の課題から探究する（令和4年度）	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	食品ロスについて、探究の過程に基づいた活動を行ない、様々な立場の意見を基に議論を重ね、アイデアの案をまとめ上げた。また、アイデアの実現に向けて協力体制が強まっている姿がうかがえる。（令和4年度）

各学校において定められた評価の観点は、各学校の教育目標や生徒の実態等を踏まえて定められており、生徒の成長や学習状況を分析的に評価するためのものである。また、各学校においては、設定した評価規準と実際の学習状況とを照らし合わせて評価していくことが考えられる。その際、生徒の学習活動を記録したり、生徒の作品などを保存したりして、評価資料を集積しておくことが重要である。

評価結果の総括に当たっては、評価場面や単元における評価結果を総合し、「総合的な探究の時間の記録」に記述することが考えられる。その際、必要に応じて指導を行った学年（年度）を付記するなど、各学校の実態に応じて工夫して記載することが考えられる。なお、評価規準にかかわらず教育的に望ま

しい成長や価値ある学習状況が現れた場合、生徒の姿を価値付け、そのよさを記述することも大切なことである。

(2) 総合的な探究の時間の指導計画の評価・改善

総合的な探究の時間の指導計画については、実際に学習活動を展開する中で、教師が予想しなかった望ましい活動が生徒から提案されたり、価値ある学習を生み出す問題場面に遭遇したりする可能性もある。その場合、教師は、生徒との関わりの中で起きた事実から、授業の中で本時の授業計画を修正したり、授業後に本時の実践を振り返り、次時の授業計画を修正したりするなど、柔軟性をもつことが大切である。

また、単元計画及び年間指導計画作成の際に期待した生徒の姿と、学習活動に取り組む生徒の実際の姿とのズレが授業の中で見られた場合、教師は、自らの授業を振り返り、単元計画や年間指導計画の修正を行う。さらに、必要に応じて、全体計画についても見直しを図り、目標や内容の修正をすることも考えられる。

このように、各学校においては、総合的な学習の時間の指導計画の評価・改善は、①一単位時間の授業計画、②単元計画、③年間指導計画、④全体計画の全てを見渡して行うことが求められる。

総合的な探究の時間

キーワード 普通科におけるインターンシップの充実に重点を置いた指導と評価の計画
三つの観点の評価

単元名

社会貢献や自己実現のための職業
選択への模索と、自己を分析し、未来
予想をする。(2年生)

内容のまとめり

「地域」「職業」「課題発見」「自己理解」「将来展望」
(全 35 時間)

本事例では、夏休みに、地元企業や町役場の協力を得て、3日間のインターンシップを行うことを企画し、事前指導及び事後指導を行うとともに、その後の大学・学部選択と結び付けて、進路意識の向上を図るものである。

普通科におけるインターンシップの充実については、以前よりその必要性が指摘されていることもあるが、単なる就業体験ではなく、探究型のインターンシップとして活用する事例としてあげたものである。

1 単元の目標

- (1) 働く現場における問題解決の体験を通して、働く人の思いや社会で求められる力を知る。
- (2) インターンシップを通して、主体的に課題を発見し、問題解決する姿勢を身に付ける。
- (3) 仕事の本質に迫る活動を通して、職業選択に対する多様な視点を身に付ける。
- (4) 自己を見つめ、自己理解を図ることで、将来への展望をより確かなものにする。
- (5) レポート等の作成、発表会の準備を通して、自らの体験や考えが的確に伝わるように表現する。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地元企業や役所の社会における役割を調査、研究し、どのような資質や適性が必要になるかについて、気づきや発見、疑問や問いなどを付箋紙に書き出して類型化することができる。 ②自らの興味関心が何にあるか、自分の強み・弱みは何なのか等について分析ツールを利用して分析することができる。	①調査研究結果を踏まえた上でインターンシップにおける目標を設定し、自らの探究計画について、的確に伝えることができている。 ②地元企業や役所で体験したことやインタビューの内容を基にして未来をイメージし、課題となることと解決策を、収集した情報を整理・分析して論理的に表現している。 ③目標達成に向けて課題となることを整理し、大学等の関係機関を訪問したり、各種職業の方への取材やアンケートを実施したりするなどして情報収集を行うことで、複雑な問題状況における事実や関係を把握し、課題解決へ向けて自分の考えを表現する力を身に付けている。	①インターンシップを通して学んだことをまとめるとともに、自らが設定した目標について振り返り、自分の意思で課題に向き合おうとしている。 ②探究を通して、自己の在り方生き方を考えながら、将来社会の理想を実現しようとしている。

3 指導と評価の計画 (35 時間)

小単元名 (時数)	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1 地元の仕事の今を研究しよう (9)	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業や役所の社会における役割を調査、研究し、どのような資質や適性が必要になるかの仮説を立てる。 ・「情報の収集」や「整理・分析」を行うことにより、インターンシップにおける目標の設定や探究計画の立案を行う。 <p>具体的な事例①「知識・技能①」及び「思考・判断・表現①」</p>	①	①		<ul style="list-style-type: none"> ・KJ法による作成物 ・クラス発表会 (個人)
2 インターンシップの経験から、仕事の未来を創造しよう (9)	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップを通して学んだことをまとめるとともに、あらかじめ設定した目標について振り返る。 ・地元企業や役所で体験したことやインタビューの内容を基にして未来をイメージし、課題となることと解決策を考えて発表する。 <p>具体的な事例②「思考・判断・表現②」及び「主体的に学習に取り組む態度①」</p>		②	①	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート ・全体発表会 (グループ)
3 WILLプランを作成しよう (17)	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの興味関心が何にあるか、自分の強み・弱みは何なのか等について分析ツールを利用して分析し、将来の目標を立てる。 ・目標達成に向けて課題となることを整理し、大学等の関係機関を訪問したり、各種職業の方への取材やアンケートを実施したりするなど、課題解決への精度を高めていく。 ・WILLプラン (進路設計) の発表会を行って多様な意見を聞き、自らの意思を再確認するとともに、新たに発生した課題等についてまとめる。 <p>具体的な事例②「知識・技能②」、「思考・判断・表現③」及び「主体的に学習に取り組む態度②」</p>	②	③	②	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・発表会 ・振り返りシート

小単元1では、夏休みの3日間に行うインターンシップに向けて、地元企業や役所の社会における役割を調査、研究し、ブレインストーミングやKJ法を用いて、そこで働くにはどのような資質や適性が必要になるかの仮説を立てた。さらに、インターンシップに取り組むにあたって目標とする内容を、各自まとめた上でポスターによるクラス発表を行った。成果物については、A4判に縮小した上で冊子に仕上げ、クラス内及び学年内で共有できるようにし、クラスメイトによる相互評価も行って生徒自身の振り返りの材料とした。

小単元2では、夏休みに行ったインターンシップの経験を踏まえ、そこで学んだことと、あらかじめ設定した目標が達成されたかどうか振り返りシートを用いてまとめた。さらに、インターンシップの中で職場の方々に行ったインタビューに基づき、未来の職業の姿をイメージし、課題となること及びその解決策を考えて、グループ発表会を行う。発表会は、3年生にも参加してもらい、意見をもらう。また、企業や

役所の方や保護者、同窓会にも案内し、発表に対して質問していただきながら、生徒の学びを深めるとともに、視野を広げる機会とする。地域や企業の課題を発見し、解決方法を探りながら、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、様々な視野や視座から物事を捉え、多様な考えを持つものが意見を出し合い、協働的に課題を解決する方法を学習していくために設定した小単元である。

小単元3では、自己の在り方生き方の追求の契機として、進路設計（WILLプラン）の発表を行う。大学への進学希望者の多い高校では、卒業後の就職について考える機会が少なく、職業観や勤労観がないまま、大学を選択することも想定される。しかし、入れる大学を選択することを目的化するのではなく、その先にある大学等の卒業後において、社会的自立、職業的自立ができるよう、主体的に進路を決定する能力・態度を育成することが重要であり、生徒に自己の将来について考えさせるとともに、社会や職業に対する認識を深め、学ぶことの重要性を考えさせる上でも、インターンシップを有効に使いたいと考えて設定した小単元である。

4 観点別学習状況の評価の進め方

(1) 「知識・技能」及び「思考・判断・表現」(具体的事例①)

① 評価場面

本単元の導入では、夏休みの3日間に行うインターンシップに向けて、地元企業や役所の社会における役割を調査、研究し、ブレインストーミングやKJ法を用いて、どのような資質や適性が必要になるかの仮説を立てた。

ここでは、ブレインストーミングの際に、思考を整理するため、KJ法を用いて作成した成果物で、気付きや発見、疑問や問いなどを付箋紙に書き出して類型化することができるかどうかを見取り、「知識・技能①」の評価資料とした

さらに、インターンシップに取り組むにあたって目標とする内容を、各自まとめた上でポスターによるクラス発表を行い、その成果物及び発表内容を「思考・判断・表現①」の評価資料とした。なお、成果物については、A4判に縮小した上で冊子に仕上げ、クラス内及び学年内で共有できるようにし、クラスメイトによる相互評価も行って生徒自身の振り返りの材料とした。

② 学習活動における生徒の姿と評価結果

【評価規準「知識・技能①」】

地元企業や役所の社会における役割を調査、研究し、どのような資質や適性が必要になるかについて、気付きや発見、疑問や問いなどを付箋紙に書き出して類型化することができる。

気付きや発見等について、積極的に書き出し、かつ、的確に類型化ができている者を評価とした。

【評価規準「思考・判断・表現①」】

調査研究結果を踏まえた上でインターンシップにおける目標を設定し、自らの探究計画について、的確に伝えることができている。

評価については、生徒の目の付け所、思想や気付きなど、学びの過程を評価するとともに、発表の際の行動や発言、表情や表現について、ルーブリック表を用いて教員2名で評価した。ルーブリックについては、生徒自身にも評価してもらい、後の振り返りの際の材料とした。

※ルーブリック表については、『「探究力」に対するルーブリック評価の開発』(大久保貢・森幹男・中切正人著 掲載雑誌・大学入試研究ジャーナル2018-3)を基に作成(次ページ)

「探究力」に対するルーブリック評価表

評価対象		C (レベル1)	B (レベル2)	A (レベル3)	S (レベル4)	備考
考 力	問題発見力	変化や異常に気が付かない。	変化や異常に気が付くが、その原因については考えない。	変化や異常に関するいくつかの事柄との関係性に着目する。	変化や異常が起こった要因と現象が起こった経緯について考える。	
	目標設定力	仮説を立てて、見通しを持っていない。	ある程度の見通しを持っているが、論理的ではない。	問題解決に向けた道筋を、論理的に示すことができる。	様々な条件を考慮し、問題解決に向けた計画ができていく。	
	計画力	問題解決に向けたポイントに気が付かない	問題解決に向けた要点に気が付いているが、順序立てができていない。	問題解決に向けた順序が整理できている。	問題解決に向けたスケジュールが立てられる。	
	調整力	対象とする現象について、各事象の関係性に気が付くことができない。	対象とする現象に対して、限られた形で関係性を見つけている。	対象とする現象に対して、およびその関係性を見つけている。	対象とする現象の関係性について、説明ができる。	
動 力	自己表現力	思いつきでしか見通しがもてない。	予想はできるが、その根拠は言えない。	自分なりの理由を持った予想が言える。	自分なりの規則性などを考えたモデルを示して予想できる。	
	先見力	具体的な計画が提案できない。	おおよその実験・観察方法の提案ができる。	段階を踏まえた実験・観察方法を提案できる。	失敗することも想定した実験・観察方法を提案できる。	
	発信力	違いを見つけたら良いのかわからない。	1つの視点で比較するが、その結果を明確に指摘できない。	対象を比較し、それらの相違点や共通点を指摘できる。	対象の相違点や共通点について、仮説が述べられる。	
	傾聴力	自らの成果や意見がまとまっていない。	自らの成果や意見に固執している。	自らの成果と他の成果を比較する。	自らの成果と他の成果から、新しい成果や考えを述べる。	
創 力	実行力	指示された課題を実行している。	積極的に課題に取り組み、新しい課題にも挑戦している。	繰り返し作業に取り組み、規則性について考えている。	規則性を理解し、新しい解決方法を探索などの探求的活動を試みる。	
	修正力	活動が思い通りに進まず、その原因がわからない。	原因を克服して活動を進めようとするが、他をまねたりしている。	原因克服のため試行錯誤しながらも、活動を前に進めている。	よりよい結果になるよう工夫して活動を前に進めている。	
	独創力	指示された課題にしか関心が向かない。	与えられた切り口で、事象の理解をしている。	与えられた切り口とは違う切り口で課題解決に取り組んでいる。	新しい切り口で事象をとらえて、説明している。	
	企画力	行った課題の結果しかまとめられない。	得られた結果を既習事項などと関連づけている。	得られた結果を既習事項以外の学習・生活面と関連づけている。	得られた結果を一般化して理解している。	

※「探究力」に対するルーブリック評価の開発 大久保真・森幹男・中切正人著 掲載雑誌・大学入試研究ジャーナル2018-3 <http://hdl.handle.net/10098/10425> を基に作成

(2)「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」(具体的事例②)

① 評価場面

夏休みに実施したインターンシップで学んだこと、あらかじめ設定した目標が達成されたかどうか振り返りシートにまとめ「主体的に学習に取り組む態度①」の評価資料とした。

さらに、インターンシップの中で職場の方々に行ったインタビューに基づき、未来の職業の姿をイメージし、課題となること及びその解決策を考えて、グループ発表会を行った。評価については、発表会は、3年生にも参加してもらい、意見をもらう。また、企業や役所の方や保護者、同窓会にも案内し、発表に対して質問していただきながら、生徒の学びを深めるとともに、視野を広げる機会とする。なお評価については、発表の成果物及び発表内容を「思考・判断・表現②」の評価資料とした。

② 学習活動における生徒の姿と評価結果

【評価規準「主体的に学習に取り組む態度①」】

インターンシップを通して学んだことをまとめるとともに、自らが設定した目標について振り返り自分の意思で課題に向き合おうとしている。

評価については、振り返りシートへの記載内容を用いた。以下の生徒Aは、インターンシップにおいて、自ら設定した目標について振り返り、新たな気づきについて記し、発生した課題について、考察し、対応する姿が読み取れる。

<生徒Aの振り返りシートへの記載例>

私は、接客業において、コミュニケーションの取り方のポイントを学ぶことを目標として取り組みました。

私が予想していたよりも気配りすべきポイントが多く驚きました。笑顔、挨拶、身だしなみの大切さについてはある程度予想通りだったと言えますが、適切な距離感については考えもしなかったです。商品を選んでいいる際に、むやみやたらに近づき過ぎることは、相手に不快と思わせることがあるとのことでした。しかし、離れすぎること適切とはいえず、その距離感については考えさせられました。お客様に不快感を抱かせないためには、正面から近付いていくことも適切とは言えず、横からそっと近付くことがポイントとのことでした。最初の頃は、何も考えずに近付いてしまい、「結構です」と断られてしまうこともありました。インターンシップの終盤では声をかけることで、お客様が探しもとめていらっしゃる場所に誘導することができ、さらに感謝の言葉までもらうことができました。

接客の際のコミュニケーションのポイントは、お客様に不快感を抱かせず、必要なことはタイミングを逃さず実施できるよう、適切な距離を保つこと。そこには、そのお客様への気配りが存在することがポイントとなります。コミュニケーションの取り方に限らず、お客様への気配りというのが接客業で考えるべき柱なのではないかと思いました。

～未来の接客業～

AIロボットによる接客が当たり前になる時代が来るかもしれない。まず、AIロボットによって、人件費の削減が見込まれる。また、客層によって欲する商品のデータがAIに蓄積されていけば、お勧めの商品などを提示することができ、効果的な販売が期待できそうである。商品に関する説明も的確であるし、商品の口コミなども教えてくれるかもしれない。データが豊富であればあるほど、売れない商品や人気のない商品、性能の悪い商品は淘汰され、良い商品だけが陳列されることにつながるかもしれない。

逆に、AIにできなくて人間にしかできないことを追求していけば、人間による接客の価値が見いだせることができるかもしれない。

【評価規準「思考・判断・表現②」】

地元企業や役所で体験したことやインタビューの内容を基にして未来をイメージし、課題となることと解決策を、収集した情報を整理・分析して論理的に表現している。

インターンシップの中で職場の方々に行ったインタビューに基づき、未来の職業の姿をイメージし、課題となること及びその解決策を考えて、グループ発表会を行った。評価は、ルーブリック表を用いて行った。ルーブリックについては、生徒自身にも評価してもらい、後の振り返りの際の材料とした。

(3)「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」(具体的事例③)

① 評価場面

自己の在り方生き方の追求の契機として、「ウェビングマップを用いて自分の興味・関心が何にあるのかを可視化する」、「SWOT分析を用いて自分の強み・弱みについて分析する」に取り組み、作成したレポートを「知識・技能②」の評価資料とした。

自己分析を踏まえ、進路設計(WILLプラン)を行う。単なる進路設計に終わらず、未来の社会を想像しながら、今後課題となることについても考察する。発表については、1年生にも参加してもらい、強い意思を感じた発表については「Good!」シールを貼ることとした。また、保護者、同窓会にも案内し、発表に対して質問していただきながら、主体的に進路を決定する能力・態度を育成することを目指す。なお、発表の成果物及び発表内容を「思考・判断・表現③」の評価資料とした。

これまでの探究活動や、自己評価したルーブリック表などを用いながら、自分自身の変容や自己の進路希望について、振り返りシートにまとめ「主体的に学習に取り組む態度②」の評価資料とした。

※SWOT分析・・・強み(Strengths)、弱み(Weakness)、機会(Opportunities)、脅威(Threats)の4つの観点について現状を分析する方法

② 学習活動における生徒の姿と評価結果

【評価規準「知識・技能②」】

自らの興味関心が何にあるか、自分の強み・弱みは何なのか等について分析ツールを利用して分析することができる。

【評価規準「思考・判断・表現③」】

目標達成に向けて課題となることを整理し、大学等の関係機関を訪問したり、各種職業の方への取材やアンケートを実施したりするなどして情報収集を行うことで、複雑な問題状況における事実や関係を把握し、課題解決へ向けて自分の考えを表現する力を身に付けている。

【評価規準「主体的に学習に取り組む態度②」】

探究を通して、自己の在り方生き方を考えながら、将来社会の理想を実現しようとしている。

参考資料

1 「総合的な探究の時間」全体計画作成に係るチェックリスト表

NO	記載項目	チェック内容	チェック欄	学習指導要領解説のページ
1	各学校において定める目標	第1の目標と各学校における教育目標を踏まえ、各学校の総合的な探究の時間の目標を定めているか。	<input type="checkbox"/>	P22
2		「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう人間性等」の3つ資質・能力について、第1の目標を踏まえたものになっているか。	<input type="checkbox"/>	P22
3	各学校において定める内容 目標を達成するのにふさわしい探究課題	学習指導要領に記載されている課題例 (1) 現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題 (2) 地域や学校の特色に応じた課題 (3) 生徒の興味・関心に基づく課題 (4) 職業や事故の進路に関する課題等を踏まえて目標を達成するのにふさわしい探究課題を設定しているか。	<input type="checkbox"/>	P31
4	各学校において定める内容 探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力	各探究課題に対して、 (1) 「知識及び技能」 (2) 「思考力・判断力・表現力等」 (3) 「学びに向かう人間性等」の3つの資質・能力がセットで設定されているか。	<input type="checkbox"/>	P34
5	指導計画の作成と内容の取扱い	育てたい資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようになっているか。	<input type="checkbox"/>	P37
6		教科・科目等の枠を超えた横断的・総合的な学習や生徒の興味・関心等に基づく学習を行うなど創意工夫を生かした教育活動となっているか。	<input type="checkbox"/>	P37
7		生徒の多様な課題に対する意識を生かすことができるよう配慮されているか。	<input type="checkbox"/>	P41
8		言語能力、情報活用能力など全ての学習の基盤となる資質・能力を育成できるものになっているか。	<input type="checkbox"/>	P42

2 総合的な探究の時間の目標、評価の観点及びその趣旨

(1) 総合的な探究の時間における目標「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(2) 総合的な探究の時間における評価の観点及びその趣旨「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」別紙5

	観 点	趣 旨
総合的な探究の時間	知識・技能	探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
	思考・判断・表現	実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
	主体的に学習に取り組む態度	探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

3 リンク集

本事例集の作成にあたっては、次の資料等を参考にしました。

- (1) 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）（平成 30 年 3 月）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm 
- (2) 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説（平成 30 年 7 月）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1407074.htm 
- (3) 「学習評価の在り方ハンドブック」高等学校編（令和元年 6 月）
<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html> 
- (4) 平成 29・30 年改訂の学習指導要領下における学習評価に関する Q&A（令和元年 11 月）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/qa/1421956.htm 
- (5) 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 総合的な探究の時間
（令和 3 年 8 月）
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r030820_hig_sougou.pdf 
- (6) 今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（高等学校編）（平成 25 年 7 月）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/main14_a2.htm 
- (7) 宮城県公立高等学校 教育課程編成の手引き（平成 31 年 3 月）
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/koukyou/> 
- (8) 経済産業省 社会人基礎力
<https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html> 
- (9) 「探究力」に対するルーブリック評価の開発
（大久保貢・森幹男・中切正人著 掲載雑誌・大学入試研究ジャーナル 2018-3）
<http://hdl.handle.net/10098/10425> 

4 各教科に係るQ & A

Q 1 各学校において、総合的な探究の時間はどのような組織で企画・運営されているか。

(A)

各学校によって様々です。決まった形式があるわけではありませんが、総合的な探究の時間の学習内容が分掌組織をまたぐことがあるため、最近の傾向としては例えば「企画研究部」等の専門のワーキングチームが作られているところが増えてきているようです。

Q 2 全体計画はどのように作成すれば良いか。

(A)

「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総合的な探究の時間編（平成30年7月）」で、「各学校においては、第1の目標を踏まえ、各学校の総合的な探究の時間の目標を定め、その実現を目指さなければならない。」と記されており、総合的な探究の時間での取組を通して、どのような生徒を育てたいのか、また、どのような資質・能力を育てようとするのか等を明確にすることが求められています。そのため、学校教育目標及び第1の目標を踏まえて、各学校において定める目標を具体的に設定することが必要であり、さらに各学校において定める目標を達成するためにはどのような探究課題で、どのような資質・能力を育成すれば良いのかと考えていきます。このようにどのような生徒を育てたいかというところから考えて全体計画を作成すると良いでしょう。

Q 3 1つの「内容のまとめり」を1年間かけて行っても良いか。

(A)

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料高等学校総合的な探究の時間（令和3年8月）』のp50の例に掲載があるとおり、問題ありません。一方で、内容のまとめりを課題設定の場面と実際の活動の場面等に切り分けて評価することも可能です。

Q 4 1つの学習活動において、2つ以上の観点を評価することは可能か。

(A)

可能です。ただし、評価する観点が異なることから、それぞれの観点にあった評価規準が準備されていることが必要です。

Q 5 指導要録に記載の際の観点は文章表記でも良いか。

(A)

文章表記でも構いませんが、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料高等学校総合的な探究の時間（令和3年8月）』のp58の例に掲載があるとおり、3つの観点をそのまま記入することでも構いません。

Q 6 複数の学年で総合的な探究の時間を実施している場合、指導要録にはどのように記載したらよいか。

(A)

学習活動や評価の最初か最後に（〇〇学年又は〇〇年次）と記載するなど、何年生における活動の評価なのかが分かるように記載願います。

Q 7 パフォーマンス評価等を行う場面で用いるルーブリックは3年間同じものを使って良いか。

(A)

可能です。総合的な探究の時間を通じて育成したい資質・能力に基づいて作成されているものであれば、予め生徒に周知するなどして、評価の度にフィードバックを図るなど形成的評価として用いることが考えられます。

Q 8 学習評価の方法についてはどのようなものが考えられるか。

(A)

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説総合的な探究の時間のp137にあるとおり、生徒の成長を多面的に捉えるため、多様な評価方法や評価者による評価を適切に組み合わせることが考えられます。プレゼンテーションやポスター発表、総合芸術などの表現による評価、討論や質疑の様子などの言語活動の記録による評価、学習や活動の状況等の観察記録による評価、論文・報告書、レポート、ノート、作品などの制作物、それらを計画的に集積したポートフォリオによる評価、課題設定や課題解決能力をみるような記述テストの結果による評価等が、多様な評価の方法の例として挙げられています。

【総合的な探究の時間部会作成委員】

赤間 裕樹	宮城県教育庁高校教育課指導主事
清原 和	宮城県教育庁高校教育課指導主事
川崎 浩介	宮城県宮城野高等学校教諭